

ピカイチ先生の  
生活経営セミナー

2016年06月

お金と折り合う  
(③ お金の感情を知る)

ネクストライフ・コンサルティング

〒975-0038

福島県南相馬市原町区日の出町167-3

info@next-life-consult.com

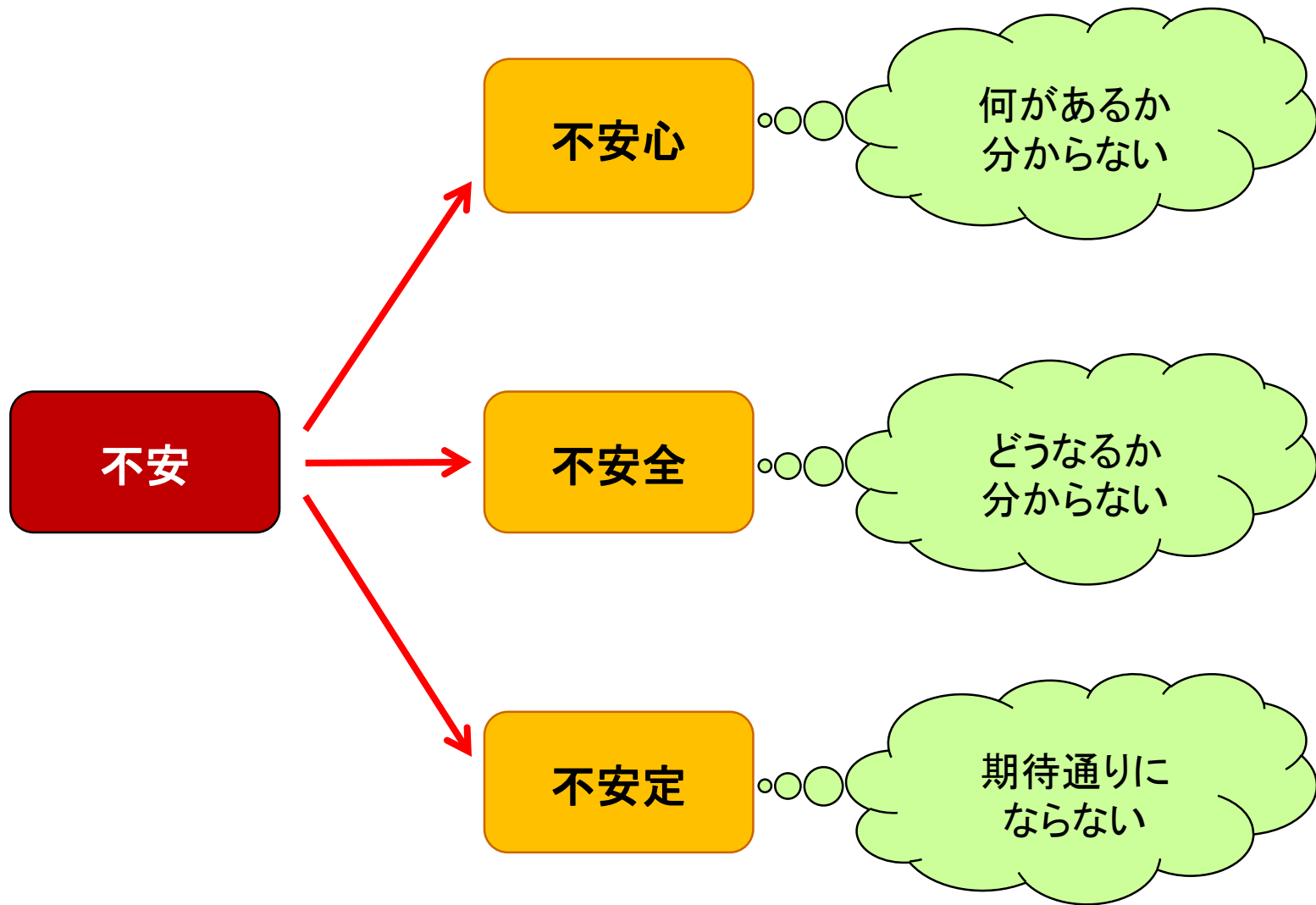


ピカイチ先生

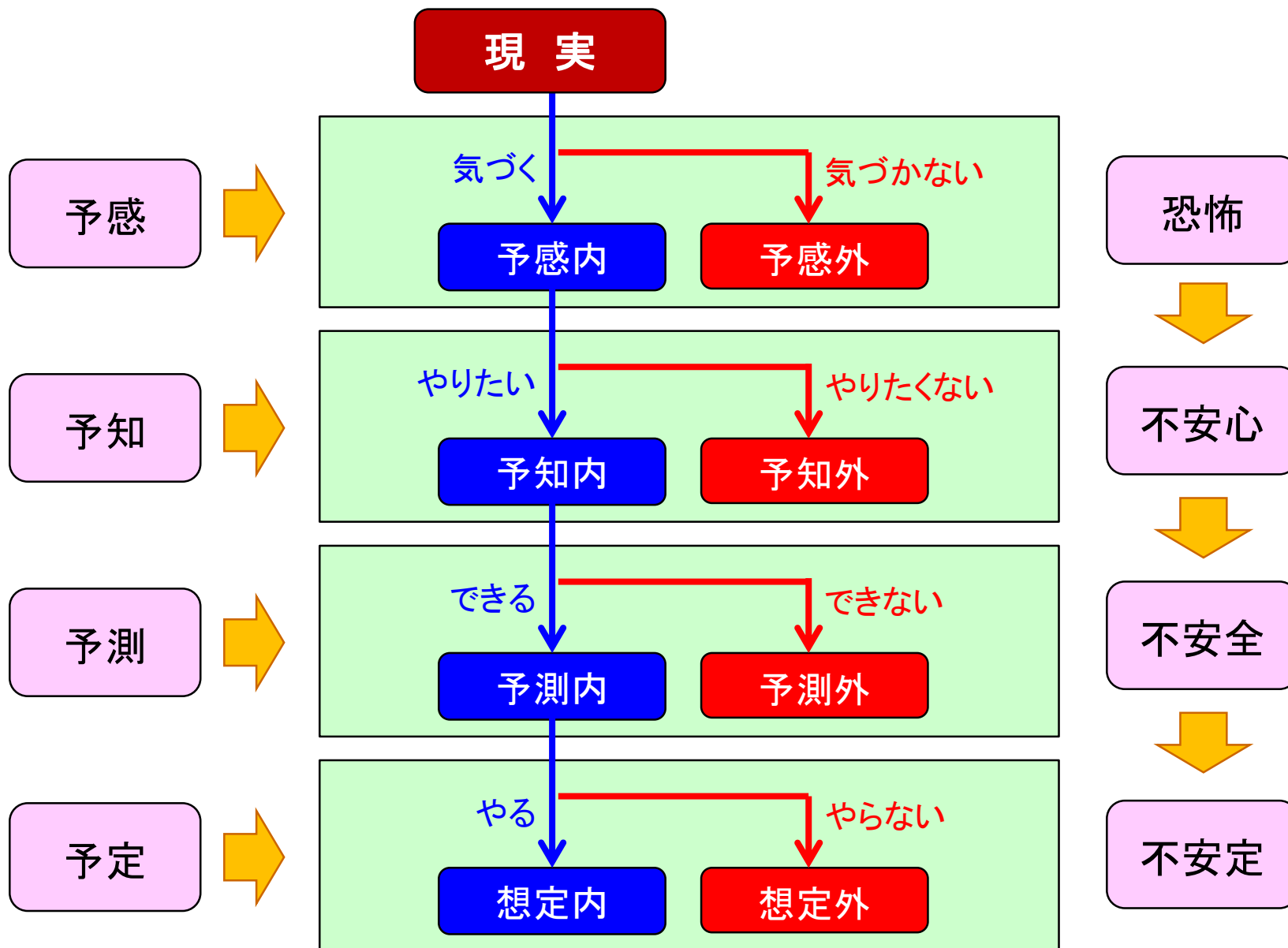
ピカイチ先生

検索

# 不安とは？



# 予感・予知・予測・予定



# 「ペイオフ」の正体を知る

10年ちょっと前に、ペイオフという**制度**が導入された。銀行預金に預けてある資金のうち、1000万円までは元本が保証されますよという制度だ。

いまある839兆円の個人の預貯金残高のうち、郵便局に預けてあるのが170兆円ほど。残りの660兆円前後は、都銀はじめ、民間銀行の預金となっている。

その660兆円の預金を保証するのは預金保険機構である。預金保険機構というところは、民間の銀行から預金残高に応じての保険積立て額をプールしておく。

そして、いざとなった時に1000万円までの預金元本を保証することになっている。これが、ペイオフの**仕組み**である。

その預金保険機構だが、どのくらいの積立て額をプールしていると思う？（中略）たったの2兆3000億円ほどでしかないのだ（2005年3月末）。

2兆円ちょっとの資金プールしかなくて、どうやって660兆円もの預金を保証できようか。

そもそも、ペイオフの制度は個々の銀行が経営不振に陥った時を**想定**してのもの。

『その時、あなたの預貯金は本当に安全か？』（澤上 篤人）より

# 永遠だと思われていた儲けの仕組み

多くの親は子供の就職先として、こういった**既得権**系の企業がふさわしいと**思っています**。伸び盛りの中小企業と伸びきった大企業の内定を取ったら、迷わず大企業を勧めるのが親心です。

しかし、親はビジネスのプロでもなければ、経営の達人でもありません。基本的に現状維持バイアスに引きずられています。

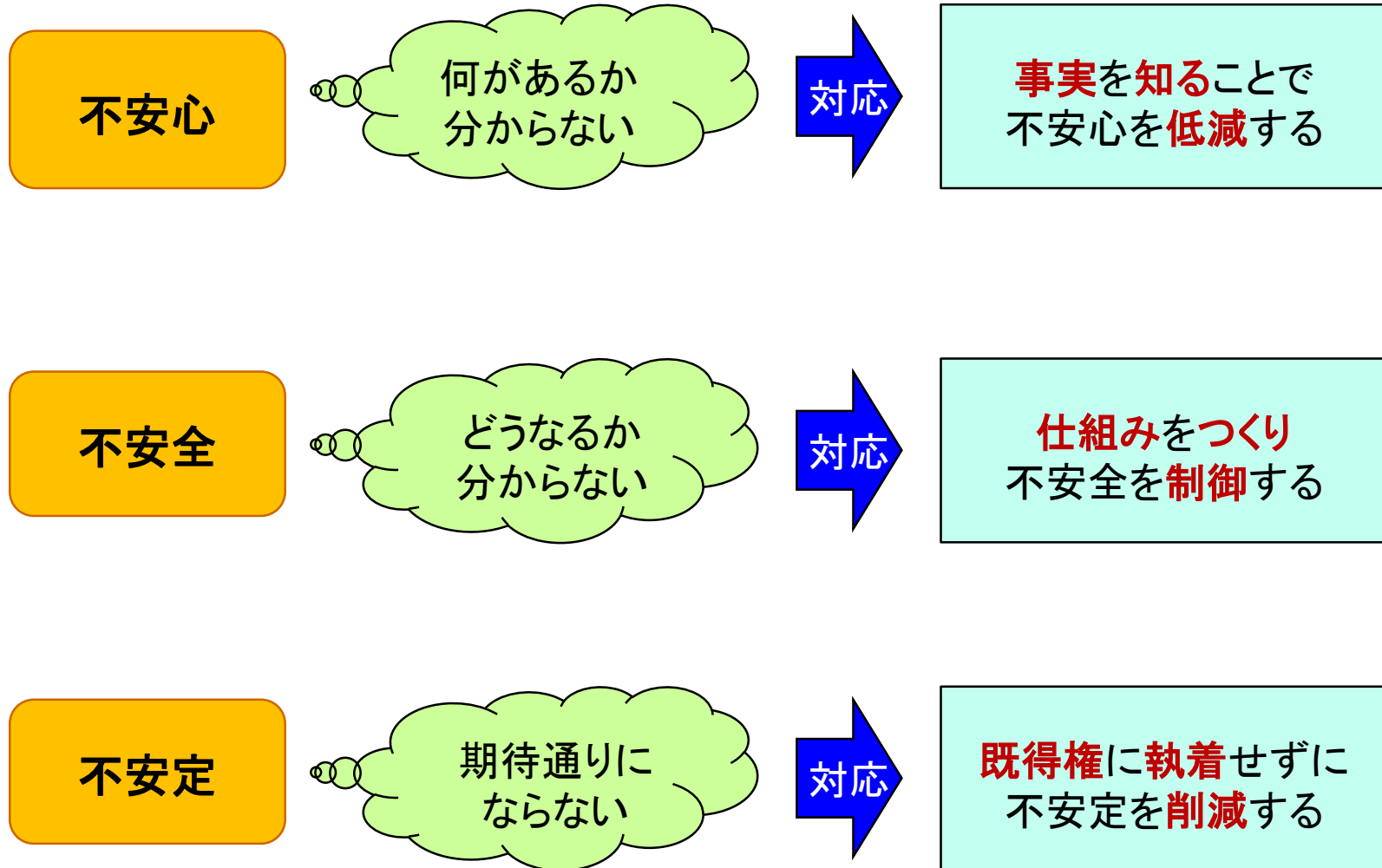
いま大企業である理由は、**過去**の状況に依存していただけかもしれませんが、変化を前にして何も変えられない脆弱なマネジメントに率いられている可能性もあります。

もちろん、どんな優秀な**経営者**がいたとしてもマクロ経済環境の変化によってある日突然儲からない会社になることも考えられます。

**既得権**にすがって生きていくということは、一見**安定**した生き方に見えて、実はそれほど安定しているとは思えません。

『高学歴社員が組織を滅ぼす』(上念 司)より

# 不安と折り合う



# 「一般人・小金持ち・大富豪」の考え方

## ●収入源

一般人は、時間でお金を稼ぐ  
小金持ちは、運でお金を稼ぐ  
大富豪は、**仕組み**でお金を稼ぐ

## ●自己投資

一般人は、ほとんどしない  
小金持ちは、給料の2割を使う  
大富豪は、給料の半分を使う

## ●資格選び

一般人は、必要以上には勉強しない  
小金持ちは、手当り次第に資格を取る  
大富豪は、抜き出た職務スキルを**ひとつ**  
**つくる**

## ●教育方針

一般人は、元気に育ててほしい  
小金持ちは、不自由なく育ててほしい  
大富豪は、**自活**できるように育ててほしい

## ●リスク管理

一般人は、**安全性**を重視する  
小金持ちは、**効率性**を重視する  
大富豪は、安全かつ効率的な**落とし所**を  
**探る**

## ●負け方

一般人は、金輪際、投資をしないと誓う  
小金持ちは、勝ちにこだわり傷口を広げる  
大富豪は、潔く負けを認めて**次に進む**

『大富豪が実践しているお金の哲学』(富田 和成)より

## 「3種類の投資家」の考え方 (1/2)

世界には次の3種類の投資家がいる。

1. 投資をまったくしない人
2. 負けないように投資する人
3. 勝つために投資する人

「投資をまったくしない人」は、仕事を引退したら、家族や務めている会社、政府が自分の面倒を見てくれると**期待**している。

「負けないように投資する人」は、たいていは自分が**安全**だと思うものに投資する。投資家の大部分はこのタイプの人だ。彼らは、お金を貯めることが大事だと**信じる**「貯蓄家」の精神構造を持っている。

「勝つために投資する人」は、自分から進んで**学び**、投資を**コントロール**する力をもっと持ちたいと思う。

(次頁につづく)

『あなたに金持ちになってほしい』(ドナルド・トランプ、ロバート・キヨサキ)より



## 「3種類の投資家」の考え方 (2/2)

車には次のものがついている。

1. ハンドル
2. ブレーキ
3. アクセル
4. シフトレバー
5. 運転免許証
6. 保険

私は投資について話をするのにこの車を例にとり、いま挙げた6つの要素のうち一つでも欠けていたら、あなたは車を運転するだろうかと聴衆に質問する。例えば、車に乗り込んだ時ハンドルがなかったら、その車を運転しようと思うだろうか？

明らかにその答えは「ノー」だ。なぜか？ その答えは誰にでもわかる。ハンドルで**コントロール**できない車を運転するのはあまりにも**危険**だからだ。

多くの人が投資は危険だと考えているのは、**自分でコントロールできない**からだ。

『あなたに金持ちになってほしい』(ドナルド・トランプ、ロバート・キヨサキ)より

# 「作業者・管理者・経営者」の考え方

3種類の富豪	3種類の投資家	会社における3種類の役者
一般人	投資をまったくしない人	作業者
小金持ち	負けないように投資する人	管理者
大富豪	勝つために投資する人	経営者

役割は？

決められたことを  
確実に  
実行する

決められたことを  
最も効率的に  
実行する

どうしたらいいか  
分らないことを  
どうにかする

# 生物であることから発した必然

昔の人にとって、人生は一寸先は闇であった。好**コントロール**装置である国家権力と科学技術は、一寸先どころではなく、30年先まで明るくしてくれた。その結果人々は**予測**可能な人生を歩むことになった。未来が予測可能であるとは、すなわち、**未来**は実は未来ではなく**現在**ということである。

それは人々に安逸と平穩を約束したが、人々から強烈な生の喜びを奪ってしまった。生きているということは、その本質において、予測不能性を孕むものだからである。

生物が生きることは、不平等と不公平をまるごと背負い込むことである。従って生きている間は、不平等と不公平から逃れることはできない。

私はあらゆる不平等と不公平を肯定するために、このことを言っているのではない。人為的な不公平はなくした方がよいに決まっている。ただ、生物であることから発した不平等は、原理的になくせない故に、生きるためにはこれを肯定するほかはないと主張しているだけだ。

人が病気になったり、死んだりするのは因果応報でも、神仏に選ばれたわけでも何でもなく、単に人間もまた生物であることから発した必然にすぎぬ。

『科学は錯覚である』（池田 清彦）より

# お金とは知識である

世界の政治や金融システムが変わってくれるようにと多くの人が願っている。それは時間の無駄だと私は思う。私に言わせれば、指導者や**システム**が変わるのを待つより自分自身が変わるほうが簡単だ。

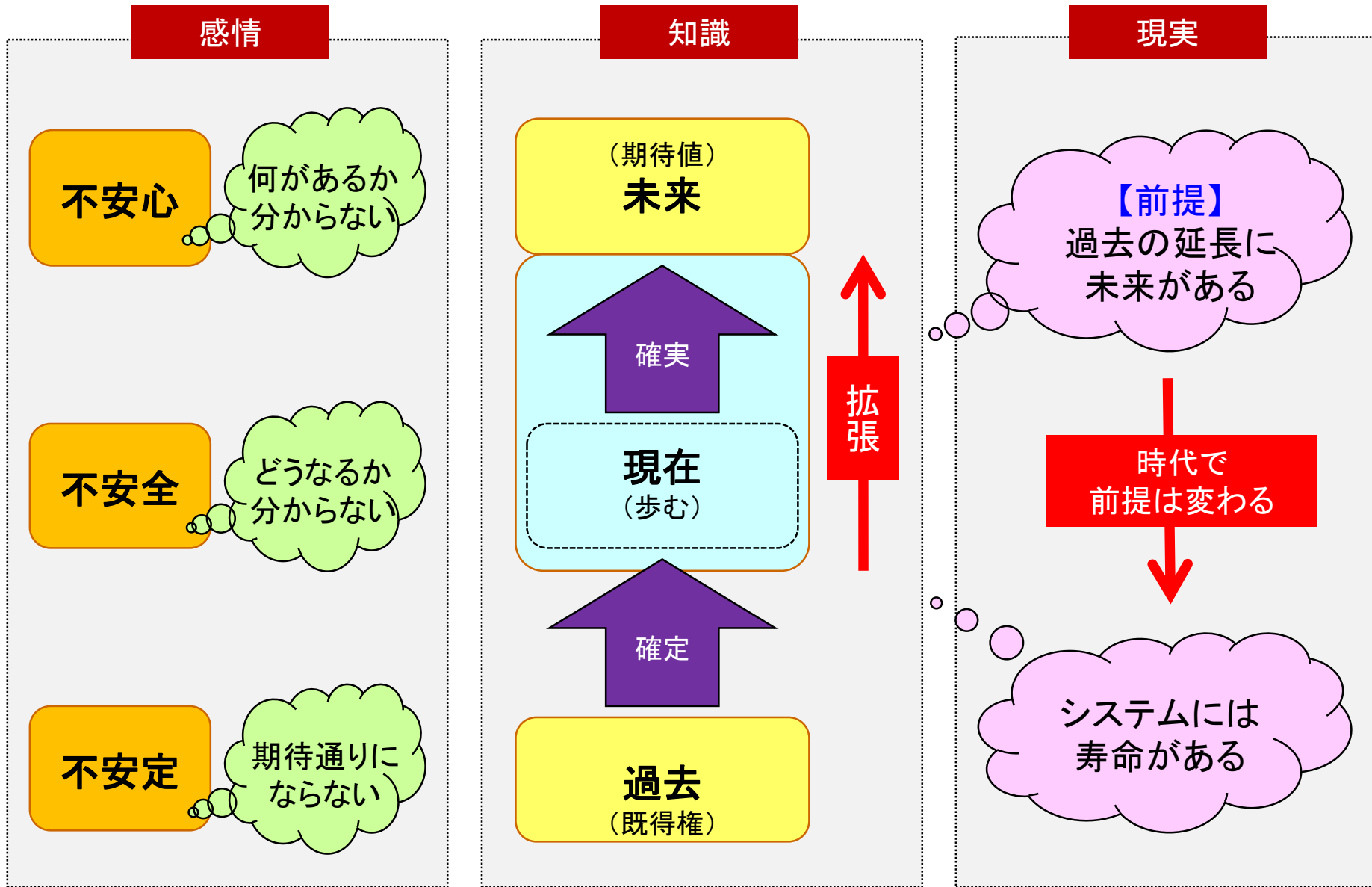
今こそ、自分で自分のお金と将来の経済状態を**コントロール**すべき時ではないだろうか。お金の世界を牛耳っている陰謀者たちが、あなたに知られたくないと思っていることを知るべき時ではないだろうか。難解で複雑なお金に関する概念を、もっと易しい形で**理解**したいと思わないだろうか。「その通りだ」と思うなら、本書はあなたのものだ。

1971年、ニクソン大統領が米国ドルの金本位制を停止すると、お金のルールが変わった。そして今日、**お金**はもはや本当の意味で**お金ではなくなっている**。だから、お金についての新ルールその一は、「**お金とは知識である**」ということになる。

本書は、お金について知識を増やしたいと思っている人のために書いた。今こそまさに、あなたが自分のお金と将来の経済状態をコントロールすべき時だ。

『金持ち父さん 大金持ちの陰謀』(ロバート・キヨサキ)より

# 過去から未来を予測する



## 自分で自分をコントロールする (1/2)

子供はそれほどばかりではない。自分で自分を**コントロール**することくらいできる。しかし、どうも最近の日本の家庭では子供をかまいすぎて、自己管理ができない子供を育てているように見える。

そういう子供たちが成長して会社に入ってくると、いちいち命令しなければ何を  
していいかわからない社会人になってしまう。古い日本人は、そんな彼らに“**指示  
待ち族**”などとうまくネーミングしたが、たしかに私もそういう社員が増えてきたこ  
とは実感する。

そういう社員は**管理**しなければならないが、あれこれと指示され、細かいことま  
で規則で縛られるのは、本人にとってもいやであろう。

**自己管理**ができていれば、あれこれ細かいことまで言わなくてすむ。こちらの負  
担も少ないし、本人も**自由**になれる。だから、私が日本の若いビジネスマンに望  
むことは、自己管理のできる人間になってもらいたいということだ。

(次頁につづく)

『日本は日本のやり方で行け！』(ビル・トッテン)より

## 自分で自分をコントロールする (2/2)

私は会社の中では、**管理者**はほしくない。自己管理ができる人間の集団であってほしい。

昨年、われわれは役職手当をなくした。部長や課長という**役職**についての評価はゼロ、役職とは別の資格制度に基づいて評価がなされている。優秀な**専門家**と優秀な**経営管理者**を同じ土俵で見ている。

さらに、**管理職**を持ち回りで受け持つことも検討している。これまでの日本企業では、年功序列で上の人間のポストが空かなければ、出世することはできなかった。

われわれは管理職に重きを置いていないのだから、いっそのこと管理職そのものを持ち回りにしてしまおうと考えている。

そうすれば、管理職のポストについたり、そこからはずれたりすることが日常化するので、これまでのような出世競争から**解放**される。そして、社員は本当の自分の実力で**評価**されるようになるのである。

そもそも私は、組織が運営されていれば、**強力なリーダー**はいらないと思っている。

『日本は日本のやり方で行け！』(ビル・トッテン)より

# 現在を生きるとは？

## 感情

不安心

何があるか  
分からない

不安全

どうなるか  
分からない

不安定

期待通りに  
ならない

## 現実へ適応

(不確実)

未来

備える

現在

(暮らす)

棄てる

過去

(既得権)

どうしたらいいか  
分からないことを、  
どうにかする

制御  
(コントロール)

仕組みを  
つくる

改善を  
続ける



# 斜陽の道を下っていく

一つの国が国民の努力の結果、経済大国になるまでは、国全体に力がある。

前世紀のイギリスもそうだった。大英帝国を築きあげるまでのイギリスは、人々がコツコツと働き、働くことに誇りをもっていた時代だったはずだ。

しかし、国全体が豊かになるころから、人々はそれまでコツコツと働いていた美德を忘れて、自分たちが作り上げた**既成の権益**を、いかに楽をしながら守ろうかということに腐心するようになる。

そうなると労働力とか勤勉さのかわりに、**お金**の効力で**権益を維持**しようとしはじめる。そして、その結果、経済大国は、青年が壮年になり、壮年が老年期を迎えるように、確実に斜陽の道を下っていくことになる。

いまはかつてのイギリスが歩いたのと同じ道を、アメリカが進もうとしている。

『日本は悪くない』(ビル・トッテン)より